



# ぽっぽ屋



輸送サービス労組 東京支部

2022. 08. 08  
NO. 013

## 表裏の JR 東日本

### 社員には・・・

### 利用者には・・・

社内誌「青信号」8・9月号で触車事故防止の取り組みの特集が組まれています。①安全の確認、②安全・訓練、③ルール、④職場風土・環境の4つのテーマで構成されており『電力指令が現場から聴き取った保安体制等を「簡易指示書」にまとめ、Teamsで相互に安全確認をしている』『列車運行に直接かわらない訓練（機器の修繕といった技術訓練等）においても、必ず最初に列車抑止の確認の訓練を実施』など本社社員がシステムを超えてさまざまな職場を回り、各職場の触車事故防止に対する「うまくいっていること」を紹介しています。

8月4日、JR東日本は「JR東日本グループレポート2022（INTEGRATED REPORT）」をプレス発表しました。その中で安全に関する基本的な考え方として『「安全」をトッププライオリティに掲げ、安全性の向上に取り組んできた過去の痛ましい事故から真摯に学び、それを教訓としながら、ソフト・ハードの両面から事故を防止する努力を継続する。』と記載されています。

社員や利用者には  
きれいな事を述べていますが・・・

## しかし現場には！！

## 騙されてはいけない！

6月1日、本社電気ネットワーク部は各現場に本電第70号「電気部門における線路閉鎖工事等によらない作業等を実施する場合の取扱い（試行）について」の通達をおこなった。これは、「線路閉鎖工事等によれない場合に従事員間で声を掛け合うことで建築限界内に立ち入り作業等をおこなうことを可能と定めているものです。

1999年大崎一恵比寿間で発生した山手貨物線作業員触車事故や2014年川崎駅構内で発生した京浜東北線列車脱線事故の教訓である「原則線閉なくして作業なし」を蔑ろにしています。

## 現場では安全よりも効率化・作業が優先！現場の声にも耳を傾けないのが今の会社だ！

安全なくして  
企業の成長と社員の幸福の  
実現は不可能！！